

【農林水産大臣賞】

うちだ やすひこ うちだ やすよ
内田 安彦・内田 泰代 愛知県蒲郡市

柑橘類

- ・ 温室みかん、露地みかん、「樹熟デコポン」の栽培を計画的に組み合わせることにより収穫・出荷時期を分散し、作業の効率化を徹底。
- ・ 全ての園地を自宅から車で5分以内の場所に集約し、家族労力主体ながら高位で安定した地域のモデルとなるかんきつ経営を実現。
- ・ 蒲郡柑橘組合の役員及び組合長を11年間勤め、「樹熟デコポン」の生産拡大やブランド確立、環境モニタリング機器導入によるみかんの高度化栽培などに大きく貢献。

1 経営の概要

- ・ 祖父の代から続く果樹農家に30歳で就農し、35歳で経営移譲。経営規模の見直しや園地の集約化により温室みかん及び「樹熟デコポン」主体のかんきつ経営を確立。
- ・ 施設栽培50aでは、通常加温栽培及び地中冷却システムによる極早期加温栽培の温室みかんと高単価で出荷する「樹熟デコポン」に取り組み、露地栽培60aでは「宮川早生」と「青島温州」のほか「ゆら早生」等の極早生品種を計画的に導入することで収穫時期を分散。
- ・ 全ての園地を自宅から車で5分以内に移動できる範囲に集約し、安彦・泰代氏及び次女の3名による家族労力主体で高収益かんきつ経営を実現。平成22年には家族経営協定を締結。

2 経営的特色

- ・ 5月から8月にかけて温室みかん、9月から1月にかけて露地みかん、4月に「樹熟デコポン」の出荷と品目・品種をバランスよく組み合わせることにより労力を分散。
- ・ 温室みかんの加温条件など栽培全般の方針決定を安彦氏が担当、日々の簿記記帳、収入と支出の管理など経理全般を泰代氏が担当。基本的に毎日、同一ほ場で一緒に作業を行い、夫婦協働による安定した果樹経営を実現。

3 技術的特色

- ・ 温室みかんでは、収穫・出荷時期の大幅な前進化を図るため、地中冷却システムによる極早期加温栽培を導入。園地特性に合わせて加温時期を設定し、収穫の労働競合を回避。
- ・ JA選果での評価結果や圃場毎の成績表を元に、施設毎のかん水量や摘果管理などを振り返り、次年度の高品質果実生産に活用。
- ・ 温室みかん栽培にヒートポンプを導入し重油暖房機と併用、さらに被覆多層化を行う事で重油の使用量を約30%削減。また、天敵製剤（スワルスキーカブリダニ）を導入して化学農薬の使用回数を年間3回削減。
- ・ 「不知火」を施設内で栽培し4月まで完熟させる「樹熟デコポン」では、早期摘果と丁寧な誘引により地域のモデルとなる大玉果生産を実現。

4 その他の特記事項

- ・ 平成24年から11年間にわたり蒲郡柑橘組合の役員及び組合長を歴任。役員就任直後から「樹熟デコポン」の産地化に積極的に取組み、JA蒲郡市の主力品種に育てブランド確立に貢献。
- ・ 温室みかん栽培のスマート農業化実現のため、環境モニタリング機器「あぐりログBOX」の地域への導入を推進し、栽培技術を高度化。
- ・ 新たな担い手の育成のため親元就農や定年帰農者などを対象に、みかん栽培に関する講義と実習を行う「蒲郡みかん塾」の開講に尽力。